

土浦市民憲章

昭和50年12月23日制定

- 1. 互いに信じ 助けあう  
あたたかいところをそだてましょう
- 1. からだをきたえ 仕事にはげみ  
あかるい家庭を きずきましよう
- 1. 自然を愛し 水とみどりの  
きれいなまちを つくりましよう
- 1. 知性を高め 教養をつちかい  
文化のみりを ひろげましよう
- 1. 伝統をふまえ 未来をみつめる  
若い力を のぼしましよう

一中地区市民委員会



(題字は平田洋香氏)

発行・編集者：一中地区市民委員会・文化広報部 発行日：平成23年10月15日（土）  
 事務局：一中地区公民館内 TEL：029-821-0104  
 世帯数 8,904戸 人口 20,381人（平成23年8月1日現在一中地区）

一中地区市民委員会  
委員長就任に当って



一中地区市民委員会  
委員長  
中台 義保

先ずはこの度の東日本大震災により被災された皆様、そのご家族、関係者の皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、併せて、一日も早い復旧と皆様のご健康をお祈りいたしております。

さて不肖私中台が一中地区市民委員会委員長を仰せつかりましたが、委員長に選出されたと申しましたが、も、慣習によって、副委員長から委員長になったと言う訳で、かならずしも皆様から信頼されて選出された訳でないと自覚しております。これからは皆様から信頼されるよう、新役員そして皆様方とともに一中地区市民委員会の発展のために努めてまいりる所存でございますので今後ともご支援ご協力の程よろしくお願いいたします。

桜町二丁目のお稲荷さんですが、その彫刻物が当時名匠と言われた後藤縫之助「文政八年—明治三十四年」によって明治九年に制作されたもので調査の結果本物であるとわかってこの度土浦市より市文化財の指定を



給水を受けるのに列をなす市民

受けました。茨城県神社庁新治地区神社要覧によると、稲荷神社は五万とあるが文化財指定のある稲荷神社は栄稲荷神社だけです。祭神の倉稲魂命（うかのみたまのみこと）宇迦之御魂神で私達の大切な生命の根源を司るのちの神様です。例祭は春と秋の年二回斎行して、役員他多数の参詣者で賑わいます。

又八坂神社の祇園祭礼ですが、本年は桜町一丁目、桜町二丁目、桜町三丁目、桜町四丁目の四町内が当番でしたが東日本大震災で自粛いたしました。神賑行事（余興）としての氏子町内当番町による山車獅子屋台の巡行は行われなかった。（注神事としての神社神輿の市内への渡御神社への還御、礎會によるお神輿の巡行は例年通り行いました。）以上委員長就任の所見と栄稲荷神社の文化財指定の報告です。

筆者は、現在桜町二丁目地区長です。

町内紹介



一中地区市民委員会  
委員  
加藤 孝雄

我が町千束町は、戸数約二〇〇戸足らずの小さな町内である。

位置は、桜川堤と旧六号国道が走り、歴史的に名高い「道祖神」が祀られている。

数年前までは旧六号国道沿いに大きな企業が林立した時代もあったが、最近では、高層マンションも建ち住環境も変わった。

土浦のキャッチフレーズである「住んでみたい、住んでよかった街、日本一住みやすいまち土浦」がそのままあてはまる町内である。

新しい住宅も建ち若い人達、特に小学生がグーンと増え町全体を活性化させてくれている。

活き活きとした笑顔、登下校する黄色い帽子、千束町交差点での子供達の元気な姿は町全体に希望をもたらしている。

高齢者クラブ、いきいきサロンの活動もあり若い力とすっかり定着した老人パワーが上手に融合して更なる明るい町になる様これから大いに期待している。

筆者は、現在千束町地区長です。

## 市民委員会 専門部の活動

### 福祉部活動の心得

福祉部長 加藤 勝雄

五月連休あけの東北の山村。萌黄色の里山の風に緋鯉・真鯉が泳いでいた。震災被害地に元気に泳ぐ鯉のぼりに何故か胸が熱くなり、頑張ろう東北！頑張ろう日本！その思いを強くした東北旅行であった。

東日本を襲った未曾有の大地震は、多くの人命を奪い、多数の人々の生活を根底から破壊した。東京電力の原子力発電所の事故は、悲劇に追いつちをかけた。まさに、地震・津波・原発事故の三重惨劇である。しかし、こうした大災害の渦中にあっても、日本人は驚くほどの高い精神性を示した。被災地の人々は、悲しみをこらえながら平静を保ち、規律を失うことなく沈着に行動している。その姿に世界中の人々が驚嘆し、かつ賞賛している。こうした日本人の美質は、紛れもなく、長い歴史のなかで培われ、はぐくまれてきた文化的伝統にほかならない。これからは、国民が一丸となって力を合わせ、助け合って被災地は勿論、国全体の再建を目指すことになる。この際、過去の幾多の国難を乗り越えてきた日本人の気高い精神性を正し

く受け継ぎ、この非常時に合致した果敢な施策・行動が不可欠である。緊急に必要な施策を見落とし・欠落してはならない。共同社会と利益社会という社会集団の違い、家族のような基礎的集団、地域集団から国家にいたるまでその集団の役割を明確にして、我々市民単位も、今、何が必要か、何が不足しているかを、謙虚に自覚的に、多角的に学ばねばならぬ。「だれもが安全で安心して住み続けることが出来る地域社会づくり」をしていくうえで期待されている市民委員会である。この組織は、上下関係の厳しい垂直的人間関係ではなく、平等的な水平関係にあり、共同体や社会に関する問題に対して、上からの采配で素直に働く重宝な組織ではない、委員会は、地域の人々の協調行動を活発にすることに よって、社会の効率性や結束力を高めることの出来る団体なのである。委員各位が社協や福祉の関係機関・諸団体との協働業務からさらに一歩すすめて、必要な行政機関の行動の監視・批判や意見具申をする「市民力」にまで意識を高め、高貴なる義務として活動領域を拡大発展させていくことが期待されるのである。監視や批判の能力を失えばその共同体は無菌状態になり社会は衰弱するだろう。

動と、公民館祭りへの参加協力等となつてはいるが、少子高齢社会から無縁社会化により社会的弱者は益々顕在化するであろう。自助そして共助から、頼りは公的な支援である。行政の強力なりリーダーシップとの協働で良い知恵と積極的なボランティア活動協力で、行政がカバー出来ない欠落部分を、汗かけ、恥かけ、涙しらの姿勢で参加精励しよう。ご協力をお願いします！

### 環境部の活動

部長 船津 寛

本年度の環境部会議は五月八日、一中地区公民館において行われ、行事計画を次の通り決定しました。

#### ①春の花いっぱい運動

この運動は、年度始めの最初の行事ですが、土浦一中地区公民館をはじめ、土浦市観光協会、中城クラブ、まちづくり活性化土浦の皆様方の協力により、公民館やまちかど蔵、各商店のプランター等が花で飾られ、広がりをみせております。

#### ②町内一斉清掃

各町内における一斉清掃が雨天により一週間延期の六月五日に行われました。子ども会育成会や高齢者クラブのご協力により、子供から高齢者まで参加していただき、空き地の除草から、下水道の清掃まで行われ、きれいな町になりました。

#### ③花火大会後の清掃

花火大会の翌日、朝六時三十分より桜川の河川敷における一斉清掃を行います。昨年まで、環境委員以外に地区長さんの呼びかけで毎年多くの市民の御参加を頂きました。ゴミ袋、ちりとり、ホーキ、軍手などの清掃用具は環境部で用意致します。今年も清掃活動にご協力ください。

#### ④一中地区公民館まつりに参加

子ども達にゴミの分別と収集の関心を持って貰うため、空き缶、ペットボトルの回収本数により、抽選で景品を差し上げており、好評です。お子さん連れでご参加下さい。



空き缶・ペットボトル回収抽選会

#### ⑤環境施設見学会

昨年度は福島原発の見学を行いました。原発事故は起きないという説明を受けました。しかし、今回の原発事故により、これほど大きな生活環境の破壊は無いと感じております。本年は、見学場所が決まってお

りませんが、役員会で検討し、日時、場所等決まりましたらご案内申し上げます。環境部員、地区長さんを通じてお知らせいたします。

### 青少年育成部の活動

部長 津久井栄蔵

チャレンジクラブ事業は、一中地区の小学四年生、五年生、六年生、総員三十二名の年十回の活動をしている。

チャレンジクラブには、次の三つの約束がある。

- ・いつも元気にあいさつをする。
  - ・どんなときでも友達を大切にする。
  - ・どんなことにも思い切って挑戦する。
- 以上を守りながらのびのびとしています。



茨城空港

### 今年度前半の活動計画。

五月二十八日……開講式とサツマ芋の栽培に挑戦

しよう

六月二十五日……

グランドゴルフに挑戦しよう

七月二十三日……

茨城空港、霞ヶ浦水族館、霞ヶ浦ふれあいランドを見学しよう

八月二十日……

霞ヶ浦環境科学センターまつりに参加しよう

十月一日……

おもしろ理科先生と実験を楽しもう

はじめは、他校の生徒もいるので、ぎこちなさがありますが、二回目、三回目となりますと仲良くなるようになります。

### 地域スポーツのこれから

スポーツ健康部長 古徳 洋一

東日本大震災のダメージは、古い街並みを行かした中心市街地の活性化を目指す土浦市にとって大きなものとなりました。そのことは震災当時よりも時が経つにつれて徐々に実感が湧いてきた気がします。

自粛ムードは払拭されつつありますが、おそらくほとんどの人が今までの生活習慣、特にエネルギーなどの「消費」に関して考え直す必要にせまられたのではないのでしょうか。

地域スポーツにとっても多かれ少なかれ影響を及ぼしています。そんな中昭和三十六年に制定されたス

スポーツ振興法から半世紀ぶりに全文改正されたスポーツ基本法が八月二十四日に施行されました。

東京オリンピックを間近に控え、スポーツの振興そのものが大きな目的の一つであったスポーツ振興法からスポーツによって地域生活を豊かにすることがスポーツ基本法の大きな目的となつていくようです。

スポーツ健康部としても今後さらに個人の健康のみに止まらず復興を含めたよりよい地域づくりにスポーツを通じて寄与していきたいと考えます。

### 我が家の震災記

文化広報部長 岡部 恒文

今年三月十一日の東日本大震災は想定外のマグニチュード九・〇の大震災で私達の住む土浦市のライフラインの電気・ガス・水道がストップした。

電気系統の回復は早く翌日の三月十二日に復旧。水道は、市内の各学校に給水車が回り、給水を受けるのに長い列ができた。各町内では、井戸水の使えるところを調べ、回覧を回して町民の利便に供した。

我が家では、中高津に住んでいる長男からペットボトルに入った水が届いた。

翌々日には、義兄の法事が稲敷市沼田にあり、ペットボトル、飲料ケー

スに四本位貫つてきて、当座の用を足すことができた。幸い、三月十四日には、水道も復旧して、ほっと一安心。都市ガスの復旧が遅れ、風呂に入れないことが堪えた。

長男がガスコンロを持ち込んでくれたのでお湯を沸かして、身体を拭く程度のお湯を確保した。家内がどうしても風呂に入りたいと駄々をこねられて閉口した。

土浦地方の被害状況は、大地震によって屋根瓦、特にぐしの破損落下、外壁の損傷、石塀の倒壊、墓石の倒壊が目立った。

当日は、数度にわたり大地震が発生した。我が家の屋根瓦も特に東西方向に破損が激しく、二階の屋根瓦とぐしが一階に落ち反動で遠くまで飛び散り、西側の隣家の屋根の手前部分を直撃した。網戸のなかった大きなガラスを打破り、網戸二枚を破損させた。東側にも落下し、かけた瓦、粘土で、庭先、通路が埋まり、遠くは、五米先の駐車場迄瓦の破片が飛び散った。

大地震という自然の力の凄さを実感させられた。家の中は、外部とは逆に北に向いていた本棚が倒れ、本や物が飛び出し足の踏み場もない状況であった。家の中の被害は、階段の壁紙を貼ってある部分と風呂場のタイル二ヶ所がひび割れた。

当日地震の発生時刻には、家族にケガはなかったが、当日の夜停電で

あったので早く床についたが、家内が午後九時過ぎに起き出し、真つ暗な階段を一人で降り、足を滑らせ転落し肋骨四本を折り左顔面に切傷と打撲のケガをした。幸い、ケガは軽く約一ヶ月で完治した。

翌十二日、通路や庭先に落下したかけた瓦、粘土を同居の二男にも手伝って貰い、ダンボール箱に入れ、車に積んで市指定の武道館駐車場に運んだ。

我が家の屋根瓦の修繕は、建築業者の骨折りで山梨県から屋根職人を連れてきて、五月二十日に終了。青いビニールシートも取りはずされ、一安心。我が家の被害は、東北三県の被害状況からみれば軽微であつたろう。然し自分自身が経験したことはない大地震であつた。

文化広報部の本年度の事業計画は広報誌「亀城」の年二回発行。公民館まつりの記念写真の撮影。ポスターセッションの作成の三つである。

### 特別寄稿

## あなたのマチの博物館

土浦市立博物館 木塚久仁子

「新しい『霞』は出ましたか？」

お客様のこんなお声が聞こえると、われわれ学芸員は嬉しく、また、緊張する瞬間です。

土浦市立博物館は昭和六十三年七

月一日に開館し、そろそろ四半世紀を迎えます。平成十九年七月二日には展示室を改装してより多くの資料をご覧いただけるようにいたしました。

文頭の『霞』とは、展示品をご紹介しますために発行し始めた「展示室だより」のことです。改装してから一年に四回、総合展示の展示替えを行い、少しでも多くの展示品をご覧いただけるようにいたしました。展示品の内容は短い解説パネルだけでは十分にお伝えできないことがあります。だからといって解説文が長いとなかなか読んでいただけません。そこで、学芸員が原則一人一点、資料を選んで少し長めの解説文をつけ、八頁の冊子に仕立てて配布することにしました。長続きしない雑誌のことを「三号雑誌」といいますが、幸いそれにはならず、次の号でめでたく十七号を迎えることになりました。

千字ほどの解説文ですが、どう書けば興味を持って読んでいただけるか、わかりやすい内容になるか、学芸員の工夫のしどころ、腕の見せどころです。だからこそ、刊行を待ち望んでいてくださる方があると知ると嬉しく、また、読みやすい内容だったかしらと緊張する瞬間でもあるのです。

「展示室だより」の内容を、学芸員が実際にご案内する「展示解説

会」も始めました。展示品を前にして三十分ほどお話しします。参加者のご様子や興味の有無を確かめつつお話ししますが、書いたようには話せないもので、若い人の鋭い質問にたじたじとなることもあり、年配の方から貴重な情報をいただけることもあり、学芸員にとつての楽しい時間であるのと同時に自分の説明の良否がお客様の表情で実感できる恐ろしい時間でもあります。

ひとつ残念なのは、「展示解説会」への参加者が少ないことでしょうか。でも、一人、二人のお客様と歴史談義に大きな花が咲くこともあります。



土浦市立博物館は一中地区のほぼ真ん中にある、まさに皆さんのマチの博物館です。モノクロ印刷で手作りの『霞』ですが、是非お手にとってください。そして学芸員に会い、「展示解説会」を聞きにいらしてください。

## みんなの広場

### 私のウォーキング

蓮河原新町 高野 正俊

会社定年退職して、やっと自分を取り戻せた気がする。

ゆっくり起床、時間をかけて朝食、あきる迄テレビを見る。それもある時迄、すぐに運動不足におちいる。まずはウォーキングだ。毎日続けているうちに、数通りのコースが出来てくる。廻りを見ながらゆっくりと、見える、見える、今迄に気が付かなかった事。土手にねじれ草の花、クロパー、彼岸花、釣り人のそばでじつと待っているネコ、水門コースには、水郷公園の白鳥、餌付の為に、「朝食はまだだよ」と集い鳩もまじって、ゆつたりとすわっている。

湖辺りには、クルミの木も、あちらこちらに、青い実を付けている。

私の田舎では、山にクルミの木があり秋に収穫、一年中料理に使う。

こちらはピーナッツあえとなる野菜も、田舎ではクルミあえになる。

今年は収穫してみようかなと思っている。途中ゴミ置場の廻りに、きれいな花が植えられたりして、本当にうれしくなる。

毎日のウォーキングで、まだまだ、再発見出来るそうです。



### 《短歌》

爪の跡ひとつ残して卓に在る青き蜜柑の夜のしづもり

東崎町 荒木富美子

焼け野原の戦後の東京知らずして高々伸びるスカイツリーは

田中町一丁目 井上 寛江

避難せし息子の家はるか白辛夷しろこぶしあたり清めて漲る力

中央一丁目 櫻井 雅江

そらいろの朝顔二輪けさ咲きぬ昨日は藍を明日は何色

大和町 瀬古沢和子

### 《俳句》

初紅葉亀城櫓を装ひり

亀城跡の闇をそだてて十三夜

中央二丁目 田山登喜子

箸置に漆黒の箸秋彼岸

天高く硯のうみの収まりぬ

東崎町 渡部 敬三

### 桜町二丁目さくら俳句会 (六月〜八月例会の作品より)

バスを待つ日傘まわして立話し

荒木小夜子

廃校の窓越しに聞く蝉時雨

糸賀 孝雄

電線に夏の雀の肩よせて

川村喜代子

麦こがし話が出来ぬ口の中

田口よし子

夕暮や路地を灯してのうぜん花

根本さた子

にわか雨そつと引きよせ夏布団

福澄 福子

歳時記を開き閉じての大暑かな

深谷 由子

片蔭に籠を吊るして小鳥市

藤川 祐子

夏掛けを蹴つて大の字男の子

矢野 澄枝

梅雨あけや暑しと日記書いただけ

矢野惣四郎

厨まで風流れくる今朝の秋

若松 明子

見直して捨てる封筒風薫る

五頭 政利

### 年金・医療・介護と相続 対策セミナーを受講して

桜ヶ丘町 菅井 耕

七月初旬二日間に亘り一中地区公民館前期該講座が開かれました。講師はある生保会社のチーフ・インストラクター氏で、茨城県を中心に教職員・自衛隊関係を主体にPR活動しておられる。

講義は我々年配者にとって非常に関わりの深いもので、なる程と納得のいくものが多くあり、勉強になりました。「社会保障制度」「相続遺産分割」という二冊の立派な教科書を頂きましたので、今後これを頼りに、その都度不明点の解明に努力したいと思っております。

老後の夫婦の生活費について、月額二十二万三千円にゆとりを上乘せして三十六万六千円という計算が出ており、老後資金の不足分五千万円が自助努力目標だそうです。

相続については、現在審議中の案によると、基礎控除が現在より四割位削減になり、十二・五%の世帯で納税することになる。そこで資産をあらかじめ生前贈与しておく方法があり、平成十五年の改正で特別控除額二千五百万円、のちに相続時精算課税制度を利用することになる。私は今回の受講で初めてそのことを知りました。

このように内容の濃い講座でした



が、受講者が十七〜十八人と少なかったのが勿体なく残念でした。最後に沼崎館長の細かい室温管理に感謝申し上げます。

### 私のライフスタイル

湖北二丁目 鶴田 光子

退職し、これからの人生の目的を探して、色々な本を読んだり、講演や先人の話をうかがったりしておりました。もがいていた時期でもありまたその生活を楽しんでいた時期でもありました。

しかし、そのような時間は、今となつては、遠い過去になりました。ある時、友人から舞踊の発表会に誘われた事がきっかけで、心の中の迷いが晴れ、踊に惹かれていく自分に気が付きました。

その頃から舞踊への夢を追いかけ始めていたのかと思います。

そして、すばらしい指導者との出会いもありました。

奥深い舞の世界、そして舞に対する揺るぎない情熱。

それらを教えてくださった家元との出会いが、私のライフスタイルを決定付けました。

舞う時、わたしの心のどこかには常に「秘すれば花、秘せざれば花なるべからず」という能楽を大成した世阿弥の言葉があります。

何もかも表現し切って見せてしまうのではなく、全てを表現し切らない所に、人は興味や好奇心を惹きつけられるのではと感じております。

人生七十才、八十才になっても女らしく、上品で魅力的であるためには少し隠された部分のある方が魅力的なのではないでしょうか。

同様のことが舞の世界でもあてはまると思います。



日本舞踊を趣味とし、残された人生を惜しみなく生きようとする日々の中、(風姿花伝)舞の真髄は、果てしなく遠いでしょうが、生命あるかぎり、踊り続けます。

それが私のライフスタイルだから。

## 震災に教えられたこと

文京町 橋本久美子

蛇口をひねれば水が出てボタンを押せば炊飯、洗たく、風呂も沸き、それが普通と思っていた生活が一瞬にして消えました。私は戦後生まれで戦争、地震、水害とあらゆる災害にもあわず三月十一日まで過ごしてきました。家は無事でもライフラインが止まるというのは、こんなにも大変なものかと身にしみて感じました。一番困ったのは水でした。井戸はありトイレには使えますが、飲料水には使えず、まだ非常用に何本か買っておいた水も消費期限を過ぎていた為、全部使い切った後で新しい水をそのうちにといいながら購入してあります。昔、亡くなった母が「夜寝るときは、やかんかポットに水を一ぱい入れておく様に」と言われたこともいつしか忘れ、冷蔵庫の水を溶かしてお湯を沸かす始末でした。幸い、給水車も次の日には来てくれましたので助かりました。食器を洗う時も、洗い桶に水を溜め大事に大事に使いました。団塊の世代の競争の世代で前しか見ずに走ってきましたが、ここでちょっと立ちどまって、もう一度自分を見つめなおす良い機会と思いました。身の回りの不要なものを整理し、防災リュックの点検、水、電池を買い、ブルーシート、ヘルメット、カンテ

ラ、卓上コンロ、クーラーボックス、水用のタンク等、物置の一番手前へすぐ取り出せるようにまとめて置きました。また今回、体の不自由な一人暮らしの高齢者を一中体育館の避難所へお連れしましたが、若い子供連れの家族や、若者達であの広い体育館がいっぱいになるほどいてびっくりしました。「家にいるより、皆と一緒にいたほうが安心」というのを聞き、人と人の結びつきの大切さを、震災により教えられた瞬間でした。

## 古里を忘れた白鳥たち!

桜町三丁目 金子 秀夫

土浦湖畔には北の国へ帰ることを忘れてしまつて夏でも白鳥達が数羽泳いでいます。

これらの白鳥や鴨達は霞ヶ浦湖畔を楽しく泳いでおります。



又、近所の人達が餌付けをしてしまつており、この場所に来れば十分に餌にありつけることを白鳥や鴨達も十分承知しておるようです。

この霞ヶ浦湖畔には白鳥が十数羽、鴨達が数十羽住みついております。今年の夏も北の国へ帰ることなく霞ヶ浦の土浦湖畔で悠々と泳いでおります。

私もこのすばらしい雄姿をカメラに納めたく撮影に出掛けてみました。この白鳥達の泳いでいる場所は、霞ヶ浦総合公園に近く、風光明媚のところですよ。しかしながら今度の震災により風車や水車が回転ストップしており風景が半減しております。

早々に、風車や水車が前のようには回転されて私達の目を楽ませてほしいです。心より願っております。

## 編集後記

今年の夏は、東日本大震災の影響でどこへ行つても節電で暑い夏でした。今回は、みんなの広場へ七編、委員より二編、専門部より五編、特別寄稿として博物館より一編頂きました。ご寄稿頂いた皆様

に心より感謝申し上げます。

(今回の編集に携わった方々)

矢口敦雄 渡部敬三 柴沼美津子

櫻井昌子 大槻正義 大久保善夫

金子秀夫 岡部恒文

以上八名です。